

大規模小売店舗における車両の駐車時間調査

鹿児島高専 正 員 平田登基男

鹿児島高専 学生員 ○浜田孝太

鹿児島高専 学生員 上簗裕太

1. はじめに

近年、様々なテナントが在り、その店舗に行けばすべての買物を済ますことができるような、大規模小売店舗が各地に建設されている。このような大型店舗の存在は利用者にとっては便利な反面、店舗周辺の交通渋滞や騒音問題を生じる可能性があり、周辺地域に及ぼす影響が危惧される。平成 12 年に大店立地法が施行され、経済的規制が中心であった旧法から周辺地域の生活環境保全のためという社会的規制についても配慮がなされるようになった。その新法の中で、大規模小売店舗新設に際しては設置者が、安全・円滑な駐車場利用のため、最低限必要な駐車台数を計算式で求めているが、その計算式では、店舗の種類の違いが考慮されていないなど、式そのものの問題部分も見られるため、国分・隼人地区を中心にオープンしている各店舗駐車場の駐車台数に関する時間的変化を調査し、計算式によって求めた駐車台数と比較・検討することによって、計算式を検証しようとするものである。

2. 駐車時間の調査方法

大規模小売店舗の開店から閉店までの時間帯に、駐車場出入口に調査員を配置し、当該店舗に出入りする全車両の車両ナンバーをデータとして記録し、それから得られた各車両の駐車時間から、駐車場内に駐車している車両台数の時間的変化等を調べた。調査は平日と日・祭日に分けて実施し、その比較検討も行った。

3. 必要駐車台数を求める計算式

現在提案されている大規模小売店舗の必要駐車台数の計算式は年間の平均的な休祭日(平日の来客数が休日よりも多くなる大規模小売店舗においては来客数が最大となる当該曜日)のピーク 1 時間に予想される来客の自動車台数を基本として、以下の計算式により求める。

$$\begin{aligned}\text{必要駐車台数} &= \text{「小売店舗へのピーク 1 時間当たりの自動車来台数」} * \text{「平均駐車時間係数」} \\ &= \text{「日来客数」} * \text{「ピーク率」} * \text{「自動車分担率」} \div \text{「平均乗車人員」} * \text{「平均駐車時間係数」}\end{aligned}$$

4. 考察

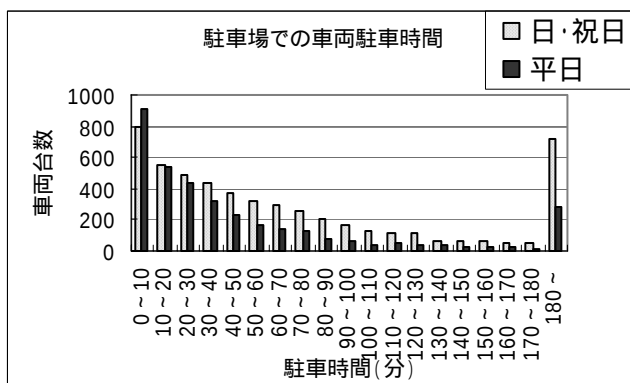
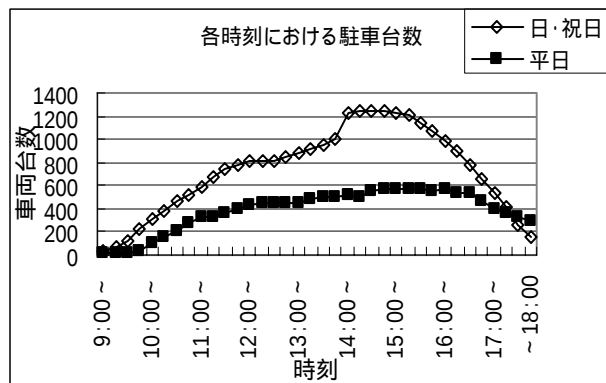
本研究は過去 3 年間に実施した調査データを解析したものである。その結果を図 - 1 に示す。紙面の都合上、4 店舗に限って示した。

- ・ 始良 S 店は駐車可能台数 1009 台を有する典型的な複合大型店舗である。店舗は市街地から離れた、郊外部に位置している。小さなレストラン等も併設している。平日、日・祝日ともかなりの車が駐車するが、日・祝日の駐車台数がかなり多い。また、日曜日の午後に急増していることも特徴的である。
- ・ 隼人 S 店は幹線道路(国道 223 号)沿いに位置する交通の便利な場所に位置している。図より平日、日・祝日とも開店直後から閉店まで平均して約 300 台前後の駐車台数があり非常に効率的な利用がなされていることがわかる。
- ・ 始良 N 店は他の 3 店舗と比較してもっとも郊外部に位置しており、国道 10 号線バイパス沿いにある。平日と日・祝日の差が非常に大きい、つまり平日と比較して日・祝日の利用者が非常に多いことを示しており、駐車場の稼働率が問題であり、改善の余地を残している。
- ・ 国分 H 店は他の 3 店舗と異なり、食料品はまったく扱わず、また土木・建築用の資材や工具等を扱う店舗である。平日の方が日・祝日よりも駐車台数が多いことが特徴的である。

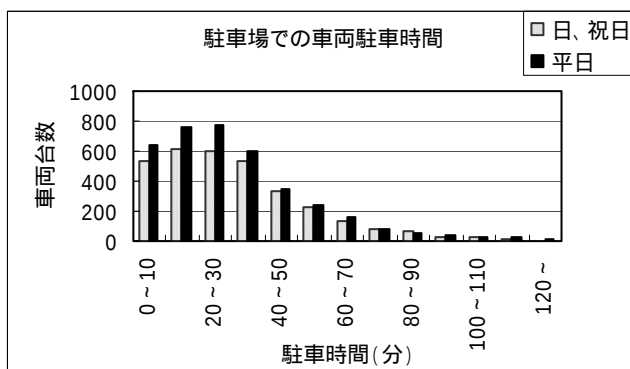
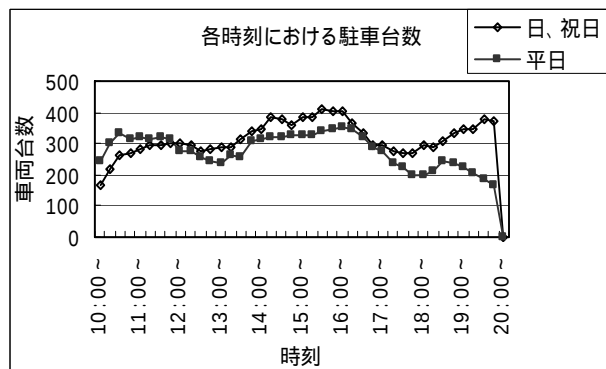
5. おわりに

必要駐車台数の計算式の妥当性の検証については発表当日に報告する予定である。

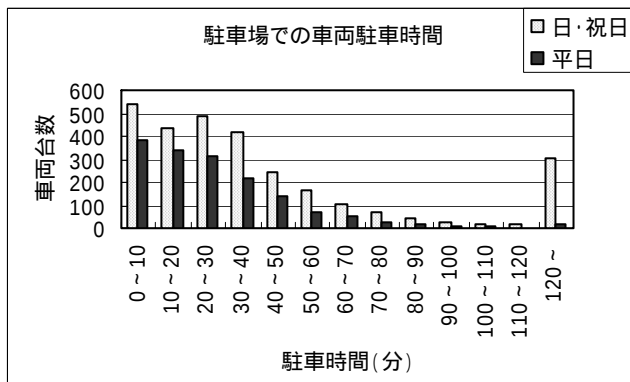
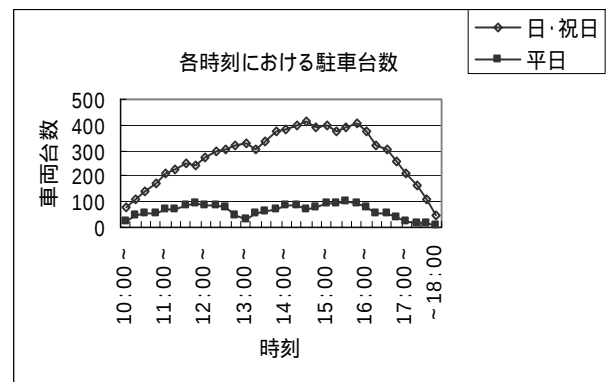
始良 S 店 (H13)



隼人 S 店 (H15)



N 店 (H13)



国分 H 店 (H13)

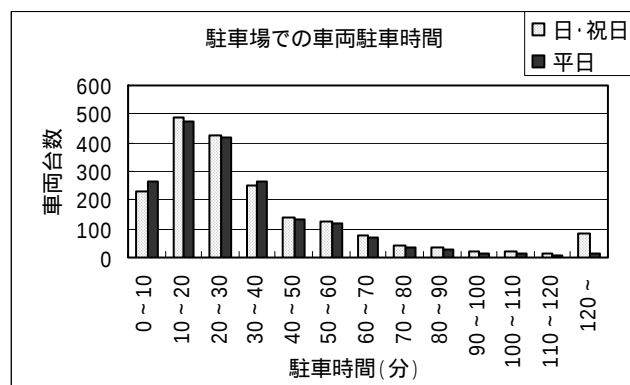
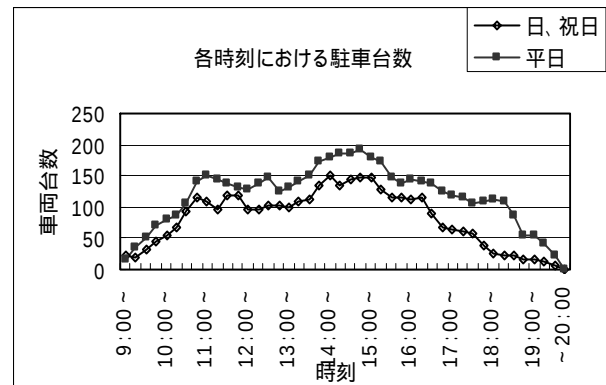


図 - 1 駐車台数の経時変化および駐車時間分布